

商品等による事故の追跡調査

(分担研究：小児の事故とその予防に関する研究)

杉山太幹

要約：国民生活センターにおいて収集した乳幼児の事故関連の上位商品を中心に、障害の程度、事故発生の場所、受傷者の動作などの事故時の状況、事故を起こした原因と考えられるものについて、電話による追跡調査を実施した。

事故の原因は、商品等の欠陥、保護者の不注意、誤使用などに大別されるが、とくに乳幼児用商品にとっては一段と高い安全性が要求され、また、乳幼児の生活環境についても同様の配慮が必要である。また、乳幼児の事故は、潜在的危険の上に発生している場合が多い。これら潜在的事故要因の解消のみならず、事故そのものの減少のためには、保健所、自治体、団体などによる啓発活動が必要である。

見出し語：国民生活センター、危害情報、小児、事故、追跡調査

研究目的：乳幼児の事故の多くは、商品、製造物、構築物など（以下、単に商品等という）の関与によるものであり、前報までに、乳幼児の発育段階別に、事故の原因となる商品等を明らかにした¹⁾²⁾。

乳幼児の事故原因商品は、病院情報によれば、自転車、階段・ドアなどの家屋内構築物、ブランコ・滑り台などの遊具類、歩行器・ベビーベットなどの乳幼児用品、魔法瓶、椅子・机などの家具類などであり、消費生活センター情報では、花火・その他の玩具、自転車、ベビーカー・おしゃぶりなどの乳幼児用品などであった。しかも、乳幼児事故の42%（病院情報）、37%（消費生活センター）がこれら上位10商品によって発生している。

そこで、事故関連の上位商品を中心に、障害の程度、事故発生の場所、受傷者の動作などの事故時の状況、事故を起こした原因と考えられるものなどについて、追跡調査を実施した。

調査方法：平成2年に情報提供を受けた事例のうち、上位商品による重症事例、特異的な事例を優先的に選定し、協力病院の協力を得て、

保護者を対象に追跡調査を実施した。

調査は主として電話による聴きとりによった。聴取件数は、玩具（花火を含む）30例、乳幼児用品14例、公園等の遊具類（エスカレーターを含む）11例、自転車（子供用自転車を含む）15例、住宅17例、家具・家庭用品（魔法瓶を含む）20例、電気製品5例、その他の雑品14例の合計126例である。

結果と考察：〔玩具（花火を含む）〕自動車・汽車などの模型、室内ジャングルジム、エアターボ、ビートル、水鉄砲など、事故に関与した商品の種類は多い。

発生場所は居間が多く、傷害の種類は顔、手指などの切傷、打撲傷などであるが、軽症事例が多い。プラスチック製、金属製の模型玩具では、窓枠などに指を挿入して抜けなくなった事故、模型ダンプの荷台が跳ねあがって顔に受傷、玩具銃のプラスチック銃弾による眼、耳などの障害、玩具をくわえたまま転倒して口腔内切傷などがある。

幼児は大人では思いつかないような遊び方をしている場合がある。安全性の確保された設計がまず重要であるが、安全な遊び方を教えること、バリ、突起物などの有無を点検しておくこ

とも必要である。

花火による傷害は、手指、前腕、顔などの熱傷である。治療期間は多くは1ないし2週間であるが、着衣が燃焼して1カ月以上の熱傷を負った事例もある。

花火による事故は、火をつけた時に突然爆発する、点火と同時に逆噴射する、同時に数ヵ所から発火するの3つに大別される。花火を実施する際の必要な準備（例：消火用水、難燃性着衣など）のほかに、筒状花火では点火してから手渡すなどの注意も必要である。SFマークの過信も禁物である。

〔乳幼児用品〕：乳幼児哺育の必需品となっているベビーカーをはじめ、ベビーベット、ベビーフェンス、ベビー用椅子、おむつ、おしゃぶりなどによる事故がある。

ベビーカー、ベビー用椅子によるものは、シートから立ちあがって転落、シートベルトを装着せずに使用して転落するなど、軽症事例が多い。ベビーベットでは、マットとネットとの間に顔を挟み窒息死した事例、ベットから転落した事例、ベビーフェンスでは、フェンス支柱と柱との間で手指を切断した事例などの重症例がある。

乳幼児用品については、使用説明書を読み使用方法を誤らないこと、使用前の点検を十分に行うことなどが必要である。

〔公園等の遊具類〕：滑り台、ぶらんこなどからの転落、転倒によるもので、骨折、頭部打撲などの重傷事例が多い。

1歳8カ月男児が、公園に設置されたスタンダードな滑り台で、下から70cm位のところでバランスを崩して落下、堅い地面で頭部打撲傷、4人乗りボックス型ぶらんこに5・6人で乗り、ぶらんこから飛び下りようとした6歳男児が、バランスを崩し、ぶらんこの吊り棒に足首を引っ掛けて転落、足関節韌帯損傷で4カ月の加療などである。

遊具類の点検が不十分であったと思われる事故もある。公園、レクリエーション施設などの固定遊具については、遊具の機能、設置後の保守点検、設置場所の環境条件などについて、早急に安全基準を設定する必要がある。

〔住宅〕：事故発生の頻度の高いのは居間であるが、重症事例は階段、玄関、ベランダ、台所、浴場などで起っている。階段、ベランダからの転落による頭部損傷や骨折、浴場での熱傷などである。

母親の留守中にビール瓶ケースを踏み台にしてベランダからのり出して転落死、里帰り中にベランダの縦格子の隙間から転落して脳挫傷、カーテンだけを閉めておいた窓から転落して骨折、ソファの上に乗り出窓から乗り出して転落して頭部打撲などである。ベランダや窓の近くには、幼児の踏み台になるようなものを置くことは、極めて危険である。

階段では、すべて玄関のたゞき台まで転落して前腕骨々折、転倒して滑り止め金具で顔に切傷、降段時に手掛りを失い頭部から転落して打撲症などである。

階段の事故は、階段の構造に起因するものもある。例えば、急勾配、曲がり階段などで踏み面の巾が狭い、蹴上げに差があることなどである。手すりを設置すること、照明を均一にし、とくに足元に陰影を生じさせないようにすること、階段に不必要なものを置かないこと、じゅうたんや滑り止めをつけるときは、かえって危険にならないかどうか十分に検討することなどである。

浴室での事故は、多くは浴槽への転落であり、操作用コックを回そうとして風呂蓋に手をつき転落、風呂蓋に乗った猫を捕らえようとしたら風呂蓋が移動して転落などもある。埋め込み式浴槽の縁が低くなっているので、幼児の転落防止措置として、浴室の外鍵の設置が必要である。

〔自転車〕：幼児を自転車に乗せることは多く、そのための補助椅子も用いられている。事故は、前・後部車輪に足を巻き込まれるもの、急に運動することによってバランスを失い転倒・転落するもの、補助椅子の取り付けが不十分なものなどである。子供用自転車では2人乗りして転倒、モトクロス・タイプの自転車に乗ろうとして転倒などのほか、自転車の整備不良によるものもある。

幼児を自転車に乗せる場合には、予め幼児に対して十分な注意を与えておくことが必要である。また、小児用自動車については乗り方や乗

る環境の指導のほか、安全点検を怠ってはならないだろう。

〔家具・家庭用品〕：最も多い発生場所は居間である。比較的軽症事例が多く、机、椅子などの角による打撲傷、切傷などであり、特異なものとしては、カーペットによる皮膚障害がある。

重症事例としては、魔法瓶による熱傷がある。畳・床の上に直接置いた魔法瓶の切換えスイッチやロックで遊んでいて熱傷を負う場合や、ワゴンの上に乗せておいた魔法瓶が、ワゴンを動かした際に倒れて熱傷を負う場合などである。魔法瓶を直接畳や床の上に置くことは勿論、簡単に動かすことの出来るワゴンの上に置くことも同様に危険である。

電気製品による事故例には、炊飯器、加湿器、アイロンなどの本体または蒸気による熱傷、掃除機、ドライヤーなどによる挫傷などがあり、特異なものとしては、電気マッサージ器による頭骨亀裂骨折があった。未使用時には、コンセントを抜いておくべきである。

〔雑品・その他〕：煙草・硬貨・医薬品・洗剤などの誤飲、鉛筆・ハサミ・カミソリなどによる刺・切傷が多い。畳の上に置いた灰皿、灰皿代りに利用していたシューズ缶などが事故誘発の原因となっている。置き場所の注意とともに、難開封性容器の普及なども必要であらう。

まとめ：乳幼児の事故は、障害の種類・程度、障害に関連する商品、発生場所など多種多様であるが、とくに重症事例を中心に追跡調査を実施した。

重症事例としては、頭部損傷、骨折、切断、熱傷、窒息などがみられ、発生場所は住宅、公園、道路などである。

住宅では、ベランダ、階段、浴室などの転落・転倒事故、魔法瓶、その他の電気製品による熱傷、乳幼児用品による窒息、切断などであり、公園・遊園地では、遊具類からの転落であり、道路では自転車によるものである。

これらの事故の原因は、商品等の欠陥、保護者の不注意、誤使用などに大別されるが、とくに乳幼児用商品にとっては一般と高い安全性が要求され、また、乳幼児の生活環境についても同様の配慮が必要である。

また、乳幼児の事故は、潜在的危険の上に発生していることが多い。これら潜在的事故要因の解消のみならず、事故そのものの減少のためには、保健所、自治体、団体などによる啓発活動が必要である。

すでにイギリス、EC諸国においては、家庭及びレジャー事故情報システム(European Home and Leisure Accident Surveillance System)が運営され、事故についての情報が収集され、事故発生時の環境要素、受傷者の行動要素、事故原因物の構造要素、規制・規律の要素などについて分析評価され、その結果は、教育教材、製品等の改良、規制・基準の設定などに活用されている。わが国における体制を整備し、情報の交流をはかるべきであらう。

文 献

- 1) 杉山太幹：国民生活センター危害情報における乳幼児事故についての検討Ⅱ，厚生省心障研「地域・家庭環境の小児に対する影響等に関する研究」，平成2年度研報書，1991。
- 2) 杉山太幹他：国民生活センター危害情報における乳幼児事故についての検討，厚生省心障研「地域・家庭環境の小児に対する影響等に関する研究」，平成元年度研報書，1990。

[玩具・遊具]

商 品 名	受 傷 者		発 生 場 所	傷 害 の 内 容			概 要
	年 齢	性 別		種 類	部 位	程 度	
1 スプリング付自動車	1才	女	家庭	挫創 切創	指	1週間通院	(プラスチック台にスプリングが付き、その上に自動車に乗せてあるもの)スプリングの台座の穴に指を入れ取れなくなった。
2 模型自動車	0才	男	居 間	挫創	指	1~2週間通院	自動車の窓枠に指を差し込み抜けなくなった。
3 筒型の玩具部品	2才	女	"	切創	口腔	1週間通院	組み立て式玩具の部品を口にくわえて遊んでいるうちに転倒。
4 玩具銃のボール	2才	女	"		鼻腔	1週間以内 即日治療完了	玩具銃のプラスチック製ボール(直径9mm)を鼻の中に入れた。
5 "	5才	男	庭	打撲傷	耳	"	3~4mmのプラスチック製ボールを耳の中に打ち込んだ。
6 マシンガン	4才	男	家庭	熱傷	顔・眼	1か月以上入院	マシンガンの引き金を引いた時に乾電池が破裂。
7 玩具のピストル	6才	女	"	打撲傷	眼	1週間以内 即日治療完了	玩具のピストル玉が眼に当たった。
8 模型ダンブカー	1才	女	居 間	打撲傷	顔	"	ダンブカーの荷台後部に手をついたところ荷台がはね上った。
9 模型汽車	2才	女	居 間	切創	鼻	2週間通院	おもちゃを持って走り回り、じゅうたんの端で転倒。おもちゃの金属部(ゼンマイのスイッチ)で切る。 (本体部はプラスチック製)
10 "	2才	男	居 間	"	足	2週間通院 縫合	ビスが取れてプリキがはずれ、その間に足指をはさまれた。
11 模型汽車の包装	2才	男	居 間	擦過傷	手指	1週間 即日治療完了	模型汽車のレールを取り出そうとして、袋を止めてあったホッチキスで切る。

商 品 名	受 傷 者		発 生 場 所	傷 害 の 内 容			概 要
	年 齢	性 別		種 類	部 位	程 度	
12 室内ジャンプ機	1才	女	居 間	骨折	前腕	3週間入院	つまり立ちから5才までと表示してあるジャンプ機から転落。
13 ビードロ	6才	女	居 間	切創	口・鼻	1週間通院	吹いてメロデーの出るガラス製おもちゃを吹いたらストローの先のガラス玉が破裂。
14 エアータン	4才	男	居 間	角膜損傷	眼	1か月以上通院	プラスチック製品でストロー状の筒に息を吹き込むと、先端の円盤が飛び出ようになっていて円盤が目当たった。
15 おしゃぶり	4か月	男	居 間	切創	口腔 (歯ぐき)	1週間以内	おしゃぶりのプラスチック貼合わせのところが凹凸しており、噛んでいるうちに歯ぐきを切った。
16 (歯列矯正用)	3才	男		歯列障害	口腔		歯列矯正用と表示のあるおしゃぶりを使用していたら、上下の歯間に隙間ができた。歯科医で矯正が必要と言われた。
17 おもちゃ容器	1才	男	居 間	切創	口腔	1週間通院	プラスチック製筒状のおもちゃ(中に菓子が入っている)を口にくわえ、ふとんにつまづいて転倒。
18 風船	2才	男		切創	眼・顔	1~2週間通院 縫合	風船の柄で切る。
19 ぬい玉	2才	男	店	熱傷	口腔	1週間通院	かんしゃく玉を口に入れて破裂。
20 水鉄砲	2才	男	浴室	じんま疹	下肢	1週間未満	ポンプ式水鉄砲で遊んでいたら、膝から上にじんま疹ができた。

[花 火]

商 品 名	受 傷 者		発 生 場 所	傷 害 の 内 容			概 要
	年 齢	性 別		種 類	部 位	程 度	
1 花 火	1才3月	男	庭	火 傷	手指・前腕	1週間 通院	火をつけると突然爆発、火の粉がとびパジャマが燃焼。
2 "	6才	男	"	"	眼	1~2週間 "	打上げ花火に点火した際、火の粉が左眼に入った。
3 "	2才	男	"	"	胸・肩	3週間 "	火をつけると爆発、火の粉がとび着衣が燃焼。
4 "	5才	女	"	"	顔	1か月 "	回転しながら浮上する花火が真っ直ぐに浮上せず。
5 "	2才	男	"	"	手 指	即日治療完了	打上げ花火の筒の中に指を入れた。
6 "	4才	男	"	"	前 腕	2週間 通院	なかなか火が付かなかったが、点火と同時に逆噴射。
7 "	4才	男	"	"	手掌・手背	2週間 "	点火と同時に逆噴射、花火を持った手に火傷。
8 "	4才	男	"	"	手 指	1週間 "	手持花火で火が逆行。
9 "	6才	女	"	"	手掌・手指	2週間 "	筒状花火に点火、真中・手元からも発火。
10 "	2才	女	"	"	"	2週間 "	点火と同時に持ち手の部分からも発火。
11 "	4才	女	"	"	"	1~2週間 "	点火と同時に爆発。
12 "	5才	女	"	"	手掌・手背	1~2週間 "	"

【乳幼児用品】

高 向	口 咽	夕 白	受 傷 者		発 生 場 所	傷 害 の 内 容			概 要
			年 齢	性 別		種 類	部 位	程 度	
1	ベビーカー	1才	男	道 路	擦 過 傷	頭 部	1週間未満 即日治療完了	乳母車を押した反動で、立ち上がった子供が転落。	
2	"	1才	女	道 路	打 撲 傷	"	"	乳母車から転落し、コンクリートの道路に打った。	
3	"	1才	女	玄 関	擦 過 傷	顔	"	セフティ・ガード付ベビーカーに乗せ、シートベルトを付けようとした時に転落。 立ちあがって転落。ベルトは締めていなかった。	
4	ベビー チェア	1才	男	居 間	打 撲 傷	頭 部	"		
5	ベビー ベッド	9か月	女	居 間	切 断	手 指	1か月通院	S Gマーク付。小指をはさまれ、爪の部分から切断。	
6	"	6か月	女	居 間	窒 息		死 亡	S Gマーク付。ネット式ベッドのネットとマットの間に顔を挟み窒息。	
7	ベビー フェンス	2才	男	廊 下	切 断	手 指	1か月以上通院	事故時の状況不明。 ベビーフェンス支柱と柱との隙間？ (フェンスの中央を押すと、支柱と柱との間に隙間ができ、手前に引くと隙間がなくなる。 テーブルに取付けて使用する補助椅子の止め具が外れ、宙ぶらりんの状態となり、頭からズルズルと落下。	
8	ベビー用 椅子	7か月	男	居 間				テーブルに取付けて使用する補助椅子の止め具が外れ、宙ぶらりんの状態となり、頭からズルズルと落下。	
9	乳児用 おむつ	7か月	女		湿 疹	会 陰 部		2日目から股間部に発赤、次第に拡大。	
10	"	2か月	男		"	脛 部		使ったことのない紙おむつを使用し、双子がそろってかぶれた。	
11	"	2か月	女		"(美肌 クリーム)	会 陰 部	2週間通院	会陰部の皮膚がむけるほどかぶれた。	
12	よだれ掛け	4か月	女		"	頭 部	1週間通院	マジックテープ付きよだれ掛けで湿疹が出来た。	

【公園等の遊具類】

高 向	口 咽	夕 白	受 傷 者		発 生 場 所	傷 害 の 内 容			概 要
			年 齢	性 別		種 類	部 位	程 度	
1	すべり台	5才	男	デパート	骨 折	前 腕	1か月以上通院	木製ユニットの組立式すべり台から転落。	
2	"	6才	男	"	打 撲 傷	頭 部	1～2週間通院	プラスチック製すべり台の固定が不完全で横に倒れた。	
3	"	5才	男	公 園	切 創	下 顎 部	2週間通院 4針縫合	後から押されて滑走面から転落。	
4	"	1才8月	男	"	打 撲 傷	頭 部	1週間 即日治療完了	下から約1m位のところでバランスをくずし、横向きに転落。	
5	"	3才	男	幼稚園	窒 息		死 亡	らせん状のすべり台の手すりに園児カバンのひもが掛り首を締められた状態で死亡。	
6	そり	4才	男	遊園地	骨 折	鎖 骨	1か月以上通院	草スキー場でそりに乗って滑っていて転倒。	
7	トーテム・ ボール	4才	女	公 園	"	前 腕	1か月以上通院	高さ110cmのボール先端を握ったら折れて転落。	
8	ボックス型 ぶらんこ	6才	男	幼稚園	捻 挫 擦 傷	足 部	4か月通院 ギブス装設	ぶらんこが止りかけたとき、飛び降りようとしてバランスをくずし転落。	

【エスカレーター】

高 向	口 咽	夕 白	受 傷 者		発 生 場 所	傷 害 の 内 容			概 要
			年 齢	性 別		種 類	部 位	程 度	
1	エスカレーター	5才	男	スーパー	切 断	手 指 (中・親)		エスカレーターで転倒、頂上上の巻き込み部分に巻き込まれた。	
2	"	5才	男	デパート	切 創	手 指	10月 縫合通院	"	
3	"	3才	女	"	擦 過 傷	手 指	1週間通院	ハンドレール下部入り込み口に巻き込まれた。	

【自転車】

高 向	口 咽	夕 白	受 傷 者		発 生 場 所	傷 害 の 内 容			概 要
			年 齢	性 別		種 類	部 位	程 度	
1	自転車	3才	男	道 路	挫 創	足 関節	3週間通院治療	後部荷台に乗せて走行中、身体をひねり、後輪に巻き込まれる。	
2	"	2才	女	"	打 撲 傷	頭 部	1週間未満	自転車倒れ、補助椅子ごと道路に放り出される。	
3	"	3才	女	"	擦 過 傷・挫 創	足 関節	1～2週間通院	後部荷台に乗せて走行中、後輪に巻き込まれる。	
4	"	3才	女	"	挫 創・切 創	"	3週間通院	"	
5	"	5才	女	"	切 創	足 部	1週間 即日治療完了	前部補助椅子に乗せて走行中、足が足乗せ台の先に出た。	
6	"	1才	女	駐輪場	打 撲 傷	手 指	1～2週間通院	子供用補助椅子がはずれ転落。	
7	"	1才	男	道 路	切 創	足 親指	3週間通院	補助椅子を使用していたが、前輪に足を巻き込まれた。	
8	"	1才	男	"	打 撲 傷	頭 部	不 明	走行中に補助椅子がはずれ、転落。	
9	"	5か月	男	"	打 撲 傷	足 部	"	後輪に足がふれた。	

[住宅]

訪問 日 時刻	受 傷 者 年 齢 性別	発 生 場 所	傷 害 の 内 容			概 要
			種 類	部 位	程 度	
1 住宅	3才 男	ベランダ	打撲 (転落)	全身	死 亡	母親の留守中に、ポリ容器とビール瓶ケースを踏み台にしてベランダの手摺からのり出して転落死。
2 "	2才 女	"	脳挫傷	"	意識不明	ベランダの縁格子の隙間約15cmから転落。
3 "	2才 男	"	骨折	頭部	1か月以上入院	カーテンだけ閉めておいた(骨髄はガラス戸)ベランダから転落。
4 "	2才 男	窓	"	"	1か月以上入院	ソファの上にのり、出窓からのり出して転落。
5 "	2才 男	"	打撲傷	前腕	1週間 即日治療完了	出窓の網戸によりかかっていて、網戸ごと転落。
6 "	3才 女	階段	骨折	前腕	1か月以上通院	階段を降りる途中すべて玄関たき台まで転落。
7 "	5才 男	"	切創	足部	不 明	階段の踏み面が動きすべてガラス戸に衝突。
8 "	5才 女	"	打撲傷	顔面	"	階段で転倒し、すべり止め金具で顔を打った。
9 "	5才 男	"	打撲傷 切創	顔面	1~2週間通院	降段時に手摺かりを失い顔部から転落。
10 "	1才 男	浴槽	熱傷	全身	死 亡	埋め込み式浴槽(浴槽のヘリまでの高さ29cm)に転落。
11 "	6才 女	"	熱傷	上半身	入院治療 手術(3回)	操作用コックを回そうとして風呂蓋に手をつき、転落。
12 "	1才 男	"	溺水		死 亡	浴槽のヘリの高さ20cm、水深35cmに転落。
13 "	3才 男	"	熱傷	足部	2週間通院	父と入浴中給湯の湯(80℃設定)がかかった。
14 "	3才 男	"	"	顔・上腕	1か月入院	風呂蓋に乗った猫をとらえようとしたら、風呂蓋が移動。
15 "	4才 男	浴室	切創	頭部	1週間通院 (2針縫合)	浴室内ですべて後頭部を釜の角で切る。
16 "	4才 男	浴槽	打撲傷	頭部	1週間 即日治療完了	浴槽(ふちの高さ70cm)から出ようとして転倒。
17 "	1才 男	玄関	打撲傷	手指	"	玄関の引き戸を開閉しているうちに、戸と壁との間に挟まれた。

[子供用自転車(三輪車を含む)]

1 子供用自転車	2才 女	階段	打撲傷	頭部	1週間通院	廊下で三輪車に乗り遊んでいるうちに、階段から転落。
2 "	1才 女	道路	"	"	"	転倒して、自転車の下敷きになった。
3 "	3才 女	公園	擦過傷	足部	1週間以内 即日治療完了	2人乗りをして遊んでいるときに、後輪にはさまれた。
4 "	5才 女	道路	骨亀裂	上腕	1か月以上通院	子供用モトクロス・タイプの自転車に乗ろうとして転倒。
5 "	3才 男	"	切創	顔	1か月通院	走行中転倒、ガードレールで切る。
6 "	2才 男	"	打撲傷	"	1~2週間通院	遊んでいる時に、ハンドルが折れた。

[家具・家庭用品等]

訪問 日 時刻	受 傷 者 年 齢 性別	発 生 場 所	傷 害 の 内 容			概 要
			種 類	部 位	程 度	
1 机	11か月 男	居 間	切創	口腔	1週間 即日治療完了	遊んでいるうちに転倒し、机で顎を打ち、上口唇を切る。
2 物 干	2才 男	ベランダ	"	顔	3週間通院 縫合	物干し竿を乗せる金具の先端で切る。
3 カーベット	3才 男	居 間	眼の充血	眼	1週間未満通院	医師は化学薬品に反応したものといている。
4 "	3才 男	"	皮膚障害	全身	10か月以上	カーベットを敷いて1か月位から、主人と子供が皮膚炎になった。
5 "	4才 男	洋 間	"	"	1か月以上通院	防虫加工のじゅうたんを買ったが、だにがついており、皮膚障害を起こした。
6 折りたたみ椅子	5才 男	居 間	擦過傷	大腿部	1週間未満 即日治療完了	折りたたみ式椅子のとめ金が抜けた。
7 ガラス戸	5才 男	"	切創	手掌・手背	1週間未満	すりガラス厚さ2mm位のガラス戸が割れた。
8 下駄箱	6才 女	リビング・ホール	眼の障害	眼	10か月以上 通院	下駄箱の扉を閉めた途端に、はね返ってきて眼に当たった。
9 学習机	3才 女	居 間	打撲傷	顔	"	学習机のネジが不良で、顔に怪我をした。
10 書棚	4才 男	書 斎	切創	手掌・手背	1週間通院	観音開きの書棚の扉が落ち、ガラスで切った。
11 飾り棚	4才 男	スーパ	擦過傷	頭	"	店内に展示してあった飾り棚が落下。
12 蚊とり器	11か月 男	居 間	熱 傷	手指	1~2週間通院	蚊とり器の上部の穴に指を入れた。
13 合成洗剤						

[ポット]

NO. 1.0.

品名	口	夕	受傷者		発生場所	傷害の内容			概要
			年齢	性別		種類	部位	程度	
1	ポット		0才	女	居間	熱傷	下腿	1～2週間通院	ワゴンを押した時に、乗せておいたポットが倒れる。
2	"		2才	女	"	"	口腔	3週間～1か月通院	ポットの湯を直接飲む。
3	"		1才	男	"	"	大腿部	半月入院植皮手術	床の上に置いたポットが倒れた。
4	"		0才	男	"	"	前腕	2週間通院	ワゴンの上に置いた調乳ポットが倒れた。
5	"		1才	男	台所	"	"	1週間通院	座卓の上にあったポットを持って引っくり返した。
6	"		1才	男	居間	"	下腿部	1～2週間通院	畳の上に置いたポットを自分でONにして、蓋を押した。
7	"		2才	女	旅館	"	足指・足背	2か月通院	畳の上に置いてあったポットのロックを押して遊んでいた。

[電機製品(ポットを除く)]

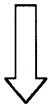
NO. 1.1.

1	炊飯器		1才	男	台所	熱傷	手背	3週間通院	伝え歩きして、炊飯器の蒸気出口に手をかける。
2	掃除機		11ヶ月	女	居間	挫傷	指	1か月以上通院	ターボブラシの回転部分に巻き込まれた。
3	ドライヤー		5才	女	"	熱傷	顔	1週間通院	ボディの継ぎ目部分のプラスチックが溶解。
4	加湿器		2才	女	"	"	足	"	蒸気の噴きだし口の前を通った。
5	電気マッサージ器		4才	女	"	頭陥	頭部	1か月入院	背もたれと上部枕部分との間にある隙間に頭をはさまれ圧迫。

[雑品、その他]

NO. 1.2.

品名	口	夕	受傷者		発生場所	傷害の内容			概要
			年齢	性別		種類	部位	程度	
1	自動車		1才	男	道路	切創	指	2週間通院 縫合	車前部のドア、窓ガラスが上まで押し上げられて指をはさんだ。
2	"		1才	男	"	擦過傷	頭部		車の後部座席から転落し、床で打った。
3	"		6才	男	"	打撲傷	上腕		自動車から降りているときに、自動ドアが閉まった。
4	カート		1才	女	スーパー	擦過傷	頭部	1週間未満通院	ショッピング・カーに乗っていて急に立ち上がり、安定を失って転落。
5	"		2才	女	"	"	頭	1週間 即日治療完了	スーパーの買物カゴ付きカートから転落。
6	灯油		2才	女	家庭	眼の障害	眼	1週間未満通院	灯油のついた手で、眼をこすった。
7	"		2才	女	"	誤飲		2日入院	パーベキュー用として、灯油をジュース・ボトルに入れていたのを誤飲。
8	"		4才	男	保育所	熱傷	背部・腰部	1～2週間通院	石油ストーブのポリタンクの側で遊んでいる時タンクの蓋が外れ、灯油をかぶった。
9	鉛筆		0才	男	家庭	切創	口腔	1週間通院	鉛筆を口に入れて遊んでいるうちに転倒。
10	医薬品		4才	女	居間	誤飲		1週間以内 即日治療完了	居間のテーブルの上に置いた水虫の薬を、チューブ入りチョコレートと間違える。
11	硬貨		2才	男	"	"		1～2週間 1週間入院	テーブルの下で遊んでいて10円玉を飲み込んだ。
12	煙草		7か月	男	"	"		1週間以内 即日治療完了	畳の上においた灰皿から煙草を取り出して誤飲。
13	"		4才	女	"	"		1週間以内 即日治療完了	ジュースの缶を灰皿の代りに利用していたら、ジュースと違って飲んだ。
14	セーター		5才	女	"	湿疹	胸部・肩	3週間通院	クリーニング後着用したら、肩から胸部が赤く腫れ、水泡が出来た。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:国民生活センターにおいて収集した乳幼児の事故関連の上位商品を中心に、障害の程度、事故発生場所、受傷者の動作などの事故時の状況、事故を起こした原因と考えられるものについて、電話による追跡調査を実施した。

事故の原因は、商品等の欠陥、保護者の不注意、誤使用などに大別されるが、とくに乳幼児用商品にとっては一段と高い安全性が要求され、また、乳幼児の生活環境についても同様の配慮が必要である。また、乳幼児の事故は、潜在的危険の上に発生している場合が多い。これら潜在的事故要因の解消のみならず、事故そのものの減少のためには、保健所、自治体、団体などによる啓発活動が必要である。